

教育目標		心身ともに たくましく 感性豊かに 主体的に行動できる子						
重点目標		・学力の向上・豊かな心の育成・健康で安全な生活作り・教職員の業務改善(子どもと向き合う時間の確保)・学校運営協議会の充実						
主要施策	施策目標 基本施策	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者の評価
知・徳・体の調和のとれた児童・生徒の育成	「確かな学力」の育成 ①授業改善 ②誰一人取り残さない取組 ③学校・家庭・地域の連携	基礎的・基本的な知識・技能を習得する。 ・授業力の向上と授業の改善をめざした校内研究会を実施する。 ・思考力・判断力・表現力等を育てる授業を展開する。 ・読書活動を充実させ、読書力の向上を図る。	・授業中に図書室を開放したり、各学年・クラスの常備図書を増やしたりする等、図書環境を充実させる。 ・各教科で読書力を高めるために、読書・読解する活動を充実させる。 ・根拠を基に、他者と交流しながら考えを深める学習をしていく。 ・授業のめあてを設定し、授業のふりかえりを書く習慣をつける。 ・ノートや学習カードの活用。 ・学力向上プランの作成。 ・教育のユニバーサルデザイン化を図る。 ・5年間で教科担任制による授業を実施する。 ・国語学習を軸とした読書活動の習慣をつける。 ・朝学習の時間に読書や本の読みかきせ、漢字学習を取り入れる。 ・理科や数学問題解決的な学習を他教科にも広げていく。(自分の考えを持つための問題解決学習のあり方) ・「話す・聞くポイント」を低中高学年それぞれに応じた内容で作成、掲示。	・年間を通して事前研究会事後研究会をそれぞれ6回実施する。 ・教師全員が一授業を校内で公開する。 ・児童生徒アンケートにおいて、「授業はわかりやすい(楽しい)。」と回答した割合が90%以上になる。 ・児童生徒アンケートにおいて「先生は教え方(やり方)がわかりやすい」と回答する児童が90%以上になる。 ・各教科で言語活動を学習活動に取り入れる。 ・自主学習を奨励し予習復習の習慣をつける。 ・自主学習において、自分が興味を持って取り組んできたことが認められる。 ・授業の中に、実物に触れたい身の回りのものを取り入れる。 ・低学年30分、中学年60分、高学年90分の家庭学習の目標時間を達成する。	B	・教科担任制により、教科研究に時間を確保し、授業の質を向上させることができた。 ・各種研修会について、教員の89%が授業に生かしていると評価した。 ・児童アンケート結果から「授業はわかりやすい」と回答した割合が90%以上になった。 ・「先生は、教え方(やり方)がわかりやすい」と回答した割合が90%以上になった。 ・児童生徒アンケートにおいて「先生は基礎的な学力(読み・書き・計算等)をつけるように頑張っている」という回答に95%が肯定的に評価している。 ・学習習慣や生活習慣が確立されている児童が、保護者から好評であることがわかった。 ・「またとない機会を捉えて、授業の質を向上させる」という意識が、児童生徒の学習意欲を高めている。 ・「またとない機会を捉えて、授業の質を向上させる」という意識が、児童生徒の学習意欲を高めている。 ・「またとない機会を捉えて、授業の質を向上させる」という意識が、児童生徒の学習意欲を高めている。 ・「またとない機会を捉えて、授業の質を向上させる」という意識が、児童生徒の学習意欲を高めている。 ・「またとない機会を捉えて、授業の質を向上させる」という意識が、児童生徒の学習意欲を高めている。	・「確かな学力」を育成するための、様々なアプローチの仕方があがられていて、良いと思う。今年度の研究で得られた成果と課題を踏まえて、さらなる向上を目指してほしい。 ・授業参観で見る限り児童全員への発言機会の工夫など、発表が苦手な児童にも発表しやすい環境を整え、配慮しているように感じる。 ・児童の算数の力不足を感じる。学校として算数の専科教員の配置等、児童の算数の力向上に努めてほしい。 ・図書イベント(朝の読み聞かせ、読書週間等)の充実により、図書室利用は増えているように感じる。 ・読書週間については、図書ボランティアの協力で興味関心の向上など成果が出ている。今後は読書週間を充実させたい。 ・読書以外の図書室開放の継続をお願いしたい。 ・学習の仕方の分からない児童が相当数存在するように感じる。「しなやか」だけでなく「やり方」のアドバイスも必要と感じる。 ・学習週間や生活習慣が未定足の児童について、具体的な改善策が必要と考えます。 ・家庭学習の充実を図るための手立てを行ってほしい。	
		高度情報通信社会を築いていく子どもたちに、主体的に生きていく力を育てる。 ・情報研修会などを通して、情報コミュニケーション技術に対する職員の技能向上に努めると共に、情報管理ならびにシステムの合理化を進めていく。 ・電子黒板・書画カメラ・タブレット端末などのICT機器の活用を進めていく。	・タブレットの活用を進める。 ・スクールタクト、ミラインド等のアプリを、学習のねらいに即して活用する。 ・体育で自分の動きを動画で確認したり、改善点を記録したり、効果的にタブレットを活用する。	・授業の中でICTを活用することができた児童が70パーセントとなった。また、児童や先生や、学習指導要領の順にタブレットを活用して学習している。 ・授業中、タブレット、ドローンやZoom等、各学年でタブレットの使用を推進している。 ・授業中、授業を問わず、ALTI児童が積極的にコミュニケーションを取っている。 ・職員連絡や児童アンケートのオンライン化を行った。	B	・授業の中でICTを活用することができた児童が70パーセントとなった。また、児童や先生や、学習指導要領の順にタブレットを活用して学習している。 ・授業中、タブレット、ドローンやZoom等、各学年でタブレットの使用を推進している。 ・授業中、授業を問わず、ALTI児童が積極的にコミュニケーションを取っている。 ・職員連絡や児童アンケートのオンライン化を行った。	・「授業の中で効果的なICTの活用方法(オンラインを含む)を、職員間で研修することで、活用へのさらなる意識を高めている。また、多くの職員が活用できるようにするための研修を行う。 ・スクールタクトやZoom、児童アンケート、ドローン等の活用を進めたい。 ・児童連絡やアンケートのオンライン化を引続き進めたい。	・本来的にICT機器は道具である。児童も職員も積極的に活用してきている。 ・学びの場をデジタル化することで、保護者にも活用してほしい。 ・スクールタクトやZoom、児童アンケート、ドローン等の活用を進めたい。 ・児童連絡やアンケートのオンライン化を引続き進めたい。
		いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。 ・不登校児童数を減少させる。 ・命を大切に児童を育てる。	・授業で実際に経験したりふれあったりする機会を増やして意欲的な学習につなげる。 ・いじめアンケートを実施し、実態に応じた対応をしていく。 ・欠席がちな児童には、家庭訪問を行うとともに、保護者や先生、児童の負担にならないよう登校を促していく。 ・毎月生徒指導研修会を持つ。 ・全ての教育で命の教育を推進する。 ・毎月の職員会で各クラスの子どもについての情報交換を行い、共通理解を図る。 ・児童がネットモラルを身に付けられるよう指導を行う。	・いじめアンケートの結果と教職員がいじめと認識した事案について、早期発見、早期対応する。 ・毎月「いじめアンケート」と全職員で生徒指導研修会を持つ。 ・不登校児童数を前年より減少させる。 ・児童アンケートにおいて、「自分を大切にすることが、他の人への思いやりにつながっている」と回答した割合が85%以上になる。 ・各学年、年に2回程度の校外学習や出前授業等を計画的に行う。	D	・生徒指導部を毎月行うとともに、問題行動発生を、月1回、職員会議に引き上げ、共通理解する。 ・有岡小学校いじめ防止等のための基本方針に基づいて、組織として取り組んでいく。 ・欠席がちな児童には、家庭訪問や電話連絡等で保護者と連絡をとり、職員間で情報を共有し、複数の職員で対応するなど、組織的な協力体制を構築する。また、関係機関と連携して対応する。 ・不登校児童へのリモート授業などの方法を模索する。 ・校内での課題解決が難しい場合には、積極的に外部機関の活用をお願いしたい。	・初期対応を迅速かつ、運よく対応することができて、保護者には安心になる。つまり早期対応ができて、保護者への負担を減らしている。 ・不登校児童を減らすための具体的な方法を、その効果を適切に検証する必要があり、継続的な取り組みが必要であると感じる。不登校児童の状況や家庭状況などを把握、情報共有し、担任だけでなく学年、学校全体でフォローできる体制を整えてほしい。 ・校内での課題解決が難しい場合には、積極的に外部機関の活用をお願いしたい。	
		自ら進んで体力を向上させようとする児童を育てる。 ・発達段階に応じた健全な食育を推進する。	・冬場の縄跳び運動や、外遊びを実施する。 ・ボール投げ、サーキットトレーニング、持久走を可能な範囲で体育の時間に取り入れる。 ・スポーツの楽しさを体感させる。 ・放課後運動場を開放し、体力向上をめざす。 ・スポーツ21等地域の体育的行事に参加するよう呼びかける。 ・各クラスにドッジボールやスポンジボール、大縄を配布する。 ・自分の動きを動画で確認したり、改善点を記録したりして効果的にタブレットを活用する。 ・体育委員会が主導して、業間休みに様々な外遊びを行う。	・年間を通して委員会を中心に企画した全校ドッジボール大会等を実施する。 ・大縄大会を行う。 ・体育の時間にサーキットトレーニングを取り入れる。 ・スポーツ21に際して、各種目の行事を児童に提示した上で練習を行う。 ・タブレットを体育の授業にも取り入れる。 ・放送や給食便り、掲示等によって、表出する意識を高める。	A	・「道具遊び」を体育の準備運動に取り入れる。また、子どもたちが自主的に取り組むことができるよう、市や区などから借り入れし、目標を持って自ら進んで体力を向上させようとする児童を育てていく。 ・児童主催の委員会を中心に、ドッジボール大会、けいこ大会を行った。児童の自主性を発揮し、体力の向上につなげられた。 ・大縄大会を開催することができた。 ・業間休みや昼休みなど、各クラスに配布されたボールを使った道具遊びを、児童の自主性を発揮し、体力の向上につなげられた。 ・大縄大会を開催することができた。 ・業間休みや昼休みなど、各クラスに配布されたボールを使った道具遊びを、児童の自主性を発揮し、体力の向上につなげられた。 ・大縄大会を開催することができた。 ・業間休みや昼休みなど、各クラスに配布されたボールを使った道具遊びを、児童の自主性を発揮し、体力の向上につなげられた。	・サーキットトレーニング、持久走等の導入により、児童の体力向上が図られている。また、児童の自主性を発揮し、目標を持って自ら進んで体力を向上させようとする児童を育てていく。 ・児童主催の委員会を中心に、ドッジボール大会、けいこ大会を行った。児童の自主性を発揮し、体力の向上につなげられた。 ・大縄大会を開催することができた。 ・業間休みや昼休みなど、各クラスに配布されたボールを使った道具遊びを、児童の自主性を発揮し、体力の向上につなげられた。 ・大縄大会を開催することができた。 ・業間休みや昼休みなど、各クラスに配布されたボールを使った道具遊びを、児童の自主性を発揮し、体力の向上につなげられた。	・校区的に子どもたちが全力で遊べる場所が少なかった。今後、児童が自主的に遊べる場所を増やしていきたい。 ・体育の授業において、効果的なタブレットの活用について今後進めたい。 ・児童の体力向上を促すための取り組みを、今後も進めていく。 ・児童主催の委員会を中心に、ドッジボール大会、けいこ大会を行った。児童の自主性を発揮し、体力の向上につなげられた。 ・大縄大会を開催することができた。 ・業間休みや昼休みなど、各クラスに配布されたボールを使った道具遊びを、児童の自主性を発揮し、体力の向上につなげられた。
		自分の将来を見据え、自ら学び続ける心豊かな児童を育てる。 ・児童や保護者の困りに応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用する。	・キャリアパスポートを実施し、保護者や児童との間で相談できる。この項目で90%以上を達成する。 ・担任が知る児童や保護者の困りについて、学年や特別支援コーディネーター、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと共有し、対応する。	・保護者アンケートの「学校に、子どもの困りについて相談できる。」の項目で90%以上を達成する。 ・担任が知る児童や保護者の困りについて、学年や特別支援コーディネーター、スクールカウンセラーと共有し、対応する。	C	・キャリアパスポートを実施することにより、キャリア学習への意識づけや保護者の理解が深まった。 ・保護者が困りに応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用する。	・保護者が困りに応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用する。	・保護者が困りに応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用する。
特別支援教育の推進	・特別支援学級に在籍する児童や各学年の児童を要する児童についての理解を深め、助言し、助け合い、ともに伸びやかな児童を育てる。 ・一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導を個別に取り組みを進める。 ・特別な教育的支援を要する児童に対応するための支援体制を作っていく。	・特別支援学級に在籍する児童(特別)と各学年の児童を要する児童についての理解を深め、助言し、助け合い、ともに伸びやかな児童を育てる。 ・一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導を個別に取り組みを進める。 ・特別な教育的支援を要する児童に対応するための支援体制を作っていく。	・職員アンケートにおいて、「特別支援学級等には、効果的に機能し、その推進を図っている」と20%以上が回答する。 ・特別支援学級を中心に、特別支援を必要とする児童について情報の共有を行う。 ・特別支援研修会を行い、全教員が合理的配慮の必要性についての理解を深める。	B	・職員アンケートにおいて、「特別支援学級等には、効果的に機能し、その推進を図っている」と20%以上が回答する。 ・特別支援学級を中心に、特別支援を必要とする児童について情報の共有を行う。 ・特別支援研修会を行い、全教員が合理的配慮の必要性についての理解を深める。	・特別支援学級に在籍する児童(特別)と各学年の児童を要する児童についての理解を深め、助言し、助け合い、ともに伸びやかな児童を育てる。 ・一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導を個別に取り組みを進める。 ・特別な教育的支援を要する児童に対応するための支援体制を作っていく。	・特別支援学級に在籍する児童(特別)と各学年の児童を要する児童についての理解を深め、助言し、助け合い、ともに伸びやかな児童を育てる。 ・一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導を個別に取り組みを進める。 ・特別な教育的支援を要する児童に対応するための支援体制を作っていく。	
教職員の資質向上	①研修等の充実	・夏期研修を行う。 ・校内自主研修を行い、授業や学級経営力を高める。	・職員アンケートにおいて「研修や研究が授業に生かされている」と回答する割合が80%以上になる。 ・研究発表会を開催し、本校の研究発表を実施する。 ・校内自主研修を年間5回行う。	C	・職員アンケートにおいて「研修や研究が授業に生かされている」と回答する割合が80%以上になった。 ・研究発表会を開催し、本校の研究発表を実施する。 ・校内自主研修を年間5回行った。	・業務改善に取り組んで子どもと向き合う時間や教科研究の時間を確保するとともに、児童が学習に取り組もうとする意欲を高める。 ・研究発表会を開催し、研究の成果を発表する。また、年度ごとに、新たな課題を設定していく必要がある。 ・ありんこカフェという名の校内自主研修を、6回開催した。	・業務改善に取り組んで子どもと向き合う時間や教科研究の時間を確保するとともに、児童が学習に取り組もうとする意欲を高める。 ・研究発表会を開催し、研究の成果を発表する。また、年度ごとに、新たな課題を設定していく必要がある。 ・ありんこカフェという名の校内自主研修を、6回開催した。	
教育環境の整備・充実	①コミュニティスクールの充実 ②地域と学校の連携・協働体制の構築	・学校便り、ホームページ等学校情報発信する。 ・授業公開や参観日、オープンスクール等を行う。 ・コミュニティスクールやPTAの活動を支援し、学校・保護者や地域で連携を進める。	・PTAの学力委員会と連携し、放課後、児童の学びの場や土曜学習を推進する。 ・学校運営協議会を窓口とし、学校と保護者、地域が一体となって児童を育成していく。 ・教育課程に位置づけ、地域の人材を活用して授業を行っていく。 ・あいさつ、言葉づかい、服装、時間を守ることなどの「生きる」生活のきまりを、地域や保護者とともに取り組む。 ・学校だよりを月1回以上発行し学校情報発信に活用する。 ・学校ホームページを週3回以上更新し、学校情報を発信する。 ・学校評価を学校だりに活用する。 ・参観日やオープンスクールを増やしていく。	・水曜広場を年10回以上開催する。 ・学校だよりを月1回以上発行する。 ・自校のホームページを週3回以上更新する。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに応えている」と回答した割合が90%以上になる。 ・PTAと連携し、土曜学習を月1回開催する。	B	・学校便りについては、月1回以上発行した。ホームページを週3回以上更新し、学校生活の様子を保護者に発信するとともに、PTAからの情報発信したり、グループクラスルームの使い方の活用も進んでいる。 ・参観日やオープンスクールなど保護者が学校に来る行事を、月一回行うことができた。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合が95%になり、目標を上回った。 ・保護者の願いに応えている」と回答した割合が90%以上になり、目標を達成できた。 ・土曜学習や漢字検定を実施し、多くの児童が参加した。 ・上下校の安全指導や生活規律、あいさつなどについて、地域や保護者等協力を得ることができた。 ・児童アンケートにおいて「学校運営協議会や地域と連携して、地域社会とのつながりが強い傾向が見られた。今後、学校運営協議会と協働しながら地域に対する愛着を育む必要がある。	・参観日やオープンスクールなど、様々な呼びかけがなされ、保護者や地域の参加がしやすい状況が広がった。 ・各種行事に保護者が関わることができ、学校生活の様子が多岐にわたるようになった。 ・土曜学習や漢字検定など、大人数が参加し、地域と協働して実施した。また、参加する保護者が増えたことは良かった。 ・児童の自主性を発揮し、目標を持って自ら進んで体力を向上させようとする児童を育てていく。 ・情報発信、保護者参加行事の月一回開催などの効果で、学校に対する保護者の理解は深まった。 ・児童が、地域社会との繋がりを感ずるよう、様々な体験を仕掛けていく必要がある。自治会やまちづくりを推進して、地域への愛着を育む仕掛けを推進していただきたい。 ・学校運営協議会や地域と連携して、地域に対する愛着を育む必要がある。	
		・全校児童が、健康で安全な学校生活を営むために必要な環境整備を行う。 ・児童一人ひとりが、様々な危険から身を守り、安全な行動がとれる能力と態度を身に付けさせる。 ・年間を見通して、行事の精選を行い、リスクを低減する。	・業務改善に取り組み、放課後の教員研究の時間を増やす。 ・会議の開始終了時刻を設定し、勤務時間内に会議を終わらせる。 ・職員連絡は掲示板を活用する。 ・防災訓練や防犯訓練を実施し、児童、教員の安全意識を高める。 ・会議の開始終了時刻を設定し、勤務時間内に会議を終わらせる。 ・職員連絡は掲示板を活用する。 ・毎日、施設的安全点検を行う。 ・職員アンケートにおいて、「業務改善の取り組みが良かった」という回答が80%以上になる。	・会議の開始終了時刻を設定し、勤務時間内に会議を終わらせる。 ・職員連絡は掲示板を活用する。 ・毎日、施設的安全点検を行う。 ・職員アンケートにおいて、「業務改善の取り組みが良かった」という回答が80%以上になる。	B	・会議の開始終了時刻を設定し、勤務時間内に会議を終わらせる。 ・職員連絡は掲示板を活用する。 ・毎日、施設的安全点検を行う。 ・職員アンケートにおいて、「業務改善の取り組みが良かった」という回答が80%以上になる。	・会議では資料を事前配布し、部会では協議事項だけ話し合うようにして、時間短縮を目指す。 ・業務改善に取り組んで子どもと向き合う時間や教科研究の時間を確保するとともに、児童が学習に取り組もうとする意欲を高める。 ・職員連絡は掲示板を活用する。 ・毎日、施設的安全点検を行う。 ・職員アンケートにおいて、「業務改善の取り組みが良かった」という回答が80%以上になる。	・職員アンケートで目標に達成しなかった理由を職員にヒアリングして、来年度の改善に活かす。 ・協議事項だけ話し合うようにして、時間短縮を目指す。 ・業務改善に取り組んで子どもと向き合う時間や教科研究の時間を確保するとともに、児童が学習に取り組もうとする意欲を高める。 ・職員連絡は掲示板を活用する。 ・毎日、施設的安全点検を行う。 ・職員アンケートにおいて、「業務改善の取り組みが良かった」という回答が80%以上になる。

学校関係者評価総括
 ・多くの児童が楽しく授業を受けており、活発に発言できる学習環境だと感じる。外部人材の活用などができればより魅力ある学校になると思う。
 ・保護者の活動は、他市よりも活発になっていると感じている。ただ、教員との連携が進むとより魅力的なものになると思います。
 ・来年度は、学校評価の重点目標に対する施策及び達成目標の具現化と評価基準の明確化を図っていただきたい。(努力目標だけでなく、できれば目標の数値化)
 ・積極的に外遊びや業間のスポーツ大会を企画し、児童の体力向上に努力したことは評価できる。スポーツテストに当たり教員、児童の測定方法の周知等継続してほしい。

次年度に向けた重点的な改善点
 ・今年度の課題である「いじめ防止等のための基本方針」に基づいた組織としての取り組みについて、引き続き具体的な施策等を学校運営協議会等に提案していく。
 ・今年明らかになった課題の1つに、事案に対する早期対応ができていない点があげられる。事案に対して適切に対応し、場合によっては関係機関等にすぐに相談できる体制づくりを行っていく。
 ・先生方は、授業や学級経営等の自己研修や研究の必要性を感じている。働き方改革推進とも関係することだが、時間確保が喫緊の課題と考える。学校サポーターや各種支援員の増員、ボランティアサポーター制度の導入など、他校の導入事例も参考にしながら検討を進めていく。

自己評価の基準 A:目標を上回った B:目標どりに達成できた C:目標をやや下回った D:目標を大きく下回った